

佐賀大学美術館  
事業報告及び  
自己点検・評価報告書  
平成26年度

平成27年12月

佐賀大学  
美術館

# 目 次

I	佐賀大学美術館の現況及び特徴	.....	
	1	設立趣旨と活動目的	..... 本紙 2
	2	施設概要	..... 年報 p. 3
	3	沿 革	..... 年報 p. 4
	4	組 織	..... 年報 p. 5
	5	平成26年度の活動	
	(1)	主な活動	..... 年報 p. 7
	(2)	主催事業展示記録	..... 年報 p. 8
	(3)	企画申請事業展示記録	..... 年報 p. 20
	(4)	プロムナード利用記録	..... 年報 p. 32
	(5)	実習・研修	..... 年報 p. 33
	(6)	刊 行 物	..... 年報 p. 35
	(7)	掲載・見学	..... 年報 p. 36
	(8)	寄附・研修等	..... 年報 p. 38
	(9)	入館者一覧	..... 年報 p. 39
	(10)	新収蔵品他作品管理	..... 年報 p. 40
II	自己点検・評価	.....	本紙 3
	1	平成26年度の主な活動に関する自己点検・評価	
	2	今後の課題等	

# I 佐賀大学美術館の現況及び特徴

## 1 設立趣旨と活動目的

平成 25 年 10 月、旧佐賀大学と佐賀医科大学の統合 10 周年記念事業の一つとして開館。美術館と併せて整備された正門エリアは「地域に開かれた大学」という佐賀大学の理念を象徴し、門扉のない低い正門、そして、水平線が強調され、ガラス張りのファサード（正面）をもつ美術館から成る。そして、佐賀大学美術館は、より多くの人に総合大学である佐賀大学の魅力を知っていただくための情報発信の場として建設された。

平成 15 年の国立大学法人法の制定以来、国立大学はそれまで以上にそれぞれの特徴を打ち出し、存在意義を明確にしなければならなくなった。佐賀大学の特色や強みは何かと言われたとき、60 年以上の歴史を誇り、多くの優れた美術・工芸分野の教員、作家、デザイナーなどを輩出してきた美術・工芸教室の実績は地域に確たる歴史を刻んでいる。このような歴史と実績を背景とし、新生佐賀大学の 10 周年を記念する事業の一つとして、佐賀大学美術館建設はスタートした。総合大学であるにもかかわらず、博物館や資料館ではなく、美術館が建てられた理由もそこにある。

一方、佐賀大学は「COC（センター・オブ・コミュニティ）」を大学の理念として掲げている。すなわち、佐賀大学の大学としての大きな存在意義とは、地域貢献にある。佐賀大学は、佐賀大学美術館を通して地域の文化芸術の促進に貢献するとともに、佐賀大学美術館が地域の人々のコミュニケーションの場となる使命を有するのは、そのような理由があるからである。

佐賀大学美術館は、佐賀大学が所有する資料の公開や、特別教科（美術・工芸）教員養成課程以来の美術作品を収集・保管・展示するとともに、美術の新しい活動や表現を地域の人々とともに作り上げていく。また、佐賀大学美術館は、総合大学が生み出すさまざまな研究成果を周知・公開していく。

博物館法に定められた美術館の機能である 1) 調査・研究 2) 資料の収集・保存・公開 3) 教育普及の柱を堅持しつつ、なおかつ佐賀大学美術館は、これらの機能に加えて大学の研究教育機関としての役割、すなわち、全学的な教育研究成果の発表、美術教育研究成果のアーカイブ化などを果たしていく。このような「社会教育の場」であるとともに、「大学の教育研究機関」でもあるという位置付けこそが佐賀大学美術館の特徴であり、学生の教育のために積極的にその場を提供し、また、美術館自体も博物館活動を通じて学生への教育を担う。

### (参考)

佐賀大学美術館設置までの主な経緯（役員会での決定等）

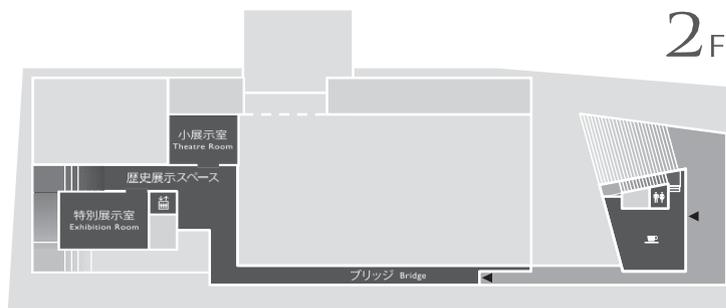
- |                  |  |
|------------------|--|
| 平成 23 年 6 月 8 日  | 美術館設置諮問委員会からの答申を報告し、美術館・正門整備委員会の設置を審議・了承 |
| 平成 24 年 1 月 25 日 | 平成 23 年度補正予算（第 2 次）案で基本設計費の審議・了承         |
| 平成 24 年 2 月 22 日 | 基本設計のイメージ説明、募金趣意書等を審議・了承                 |
| 平成 24 年 6 月 20 日 | 平成 24 年度補正予算（第 1 次）案で実施設計費、建設費の審議・了承     |
| 平成 25 年 6 月 26 日 | 佐賀大学美術館規則等の制定                            |

## 2 沿 革

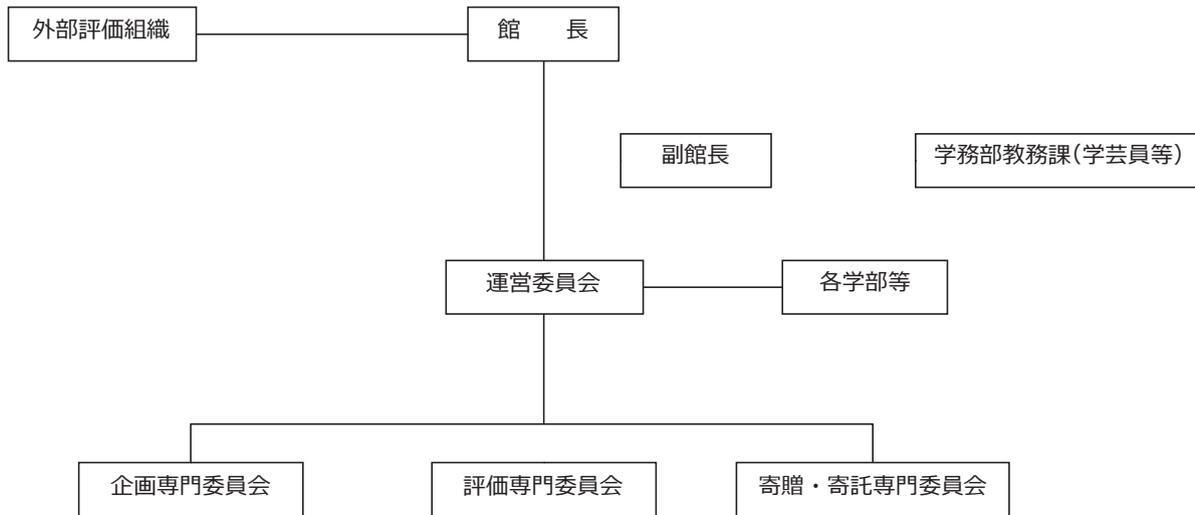
- 平成23年 1月 4日 学長年頭挨拶で美術館設置計画を発表
- 平成23年 6月 8日 役員会にて美術館設置諮問委員会からの答申書を報告  
美術館の設置を審議・了承
- 平成23年12月20日 美術館基本設計建設コンサルタント選定委員会
- 平成24年 2月22日 役員会にて基本設計のイメージを説明。募金趣意書を了承
- 平成24年 5月14日 基本設計納入
- 平成24年12月29日 美術館実施設計終了
- 平成25年 2月14日 新営工事起工式
- 平成25年 6月26日 美術館規則、美術館運営委員会規程制定
- 平成25年 8月30日 美術館建設工事竣工
- 平成25年 9月28日 佐賀大学統合10周年記念式典・佐賀大学美術館開館記念式典
- 平成25年10月 2日 一般公開開始
- 平成26年10月24日 入館者5万人達成
- 平成26年 1月22日 第18回佐賀市景観賞表彰式

### 3 施設概要

名称	佐賀大学美術館（通称 SUAM）
所在地	佐賀市本庄町1番地
基本設計	佐賀大学
実施設計	（株）梓設計九州支社（協力：（株）ワークヴィジョンズ）
監理	佐賀大学環境施設部
施工	建設・・・金子建設（株） 電気・・・（株）佐電工 機械・・・（株）九電工
構造	鉄骨造・地上2階建
延床面積	1,502㎡
展示面積	462㎡ ギャラリー1 106㎡、ギャラリー2 106㎡、 スタジオ 111㎡、特別展示室 48㎡、 小展示室 34㎡、歴史展示スペース 57㎡
その他 設備 併設	プロムナード 中庭 ブリッジ トイレ 多目的トイレ ロッカー カフェ
開館時間	10時30分～17時30分
休館日	毎週月曜日（祝日の場合は翌日、年末年始、夏季休業）



## 4 組 織



### 〔職員〕

館長	宮崎 耕 治
副館長 主任(学芸員) 事務員(再雇用) 事務補佐員(学芸員) 事務補佐員(学芸員) 事務補佐員(学芸員)	吉住 磨 子 佐々木 奈美子 西 村 彰 上 田 香 苗 大 塚 麻理子 大 坪 由 季 鳥 越 須実子
	(~平成26年8月31日)
事務補佐員	井 手 麻奈未
	(平成26年11月1日~)
事務補佐員(学芸員)	鬼 塚 美津子
	(平成26年11月20日~)

平成27年3月31日現在

### 〔運営委員会委員〕

委員長(館長)	理事	宮崎 耕 治
副委員長(副館長)	教授	吉住 磨 子
委員	教授	重藤 輝 行
委員	教授	中村 博 和
委員	准教授	永松 美 雪
委員	准教授	後藤 隆太郎
委員	教授	有馬 進
委員	学務部長	安倍 武 司
委員	佐賀大学 同窓会顧問	宮島 豊 秀
委員	教授	田中 嘉 生
委員	教授	田中 右 紀

平成27年3月31日現在

## 5 平成26年度の活動

### (1) 主な活動

- 平成26年 3月28日 正門脇に催事告知用外看板設置
- 5月 2日 入館者3万人達成
- 7月25日 「芸術と経済— アートとお金の意外な関係」(～8.24)
- 9月19日 「開館1周年記念— 海老原喜之助」(～11.9)
- 9月19日 「シリーズ美術・工芸— 小木曾誠・徳安和博」(～9.26)
- 10月24日 入館者5万人達成
- 10月26日 公開講座「世界の芸術文化」(2回目11.1/3回目11.15)
- 11月21日 「佐賀大学所蔵— 秘めたる名品展」(～12.7/1.17～3.15)
- 12月13日 「医学のあけぼのから先端医療まで」(～1.12)
- 平成27年 1月17日 「佐賀大学特別支援学校高等部  
— がんばるわたしたちの木版画展」(～1.29)
- 1月22日 第18回佐賀市景観賞表彰式
- 1月22日 「景観啓発パネル展」(～1.29)
- 3月19日 ブロンズ像《雷》(成富宏 作)の鑄造・設置
- 3月20日 「染めの系譜— 染色教室三人展」(～5.10)
- 3月20日 「バンカラ時代の佐賀大学  
— 昔なつかしキャンパスライフ」(～5.31)

## (2) 美術館主催事業展示記録

### ① 特美の創始者 石本秀雄のアトリエ

《展覧会概要》 佐賀大学「特設美術科」を創設した立役者、石本秀雄（1908-86）。

九州一円の美術教師の育成に力を注いだ教育者として、また、日展や東光会展を舞台に創作を重ねた作家として大きな影響力を持っていた石本の人間的な魅力にスポットをあて、その室内画・人物画を紹介。

《会期》平成26（2014）年3月20日（木）～5月6日（火）

《開館日数》42日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《主催》佐賀大学美術館

《入館者数》4,518名

《広報物》チラシ、外看板、HP、FB

《配布資料》チラシ、目録

《関連事業》ギャラリートーク（時間おすべて14:00～）

日程：4月6日（日）

演題：「厳しさと優しさと～本展覧会の見どころ」

講師：佐々木奈美子（当館学芸員）

日程：4月13日（日）

演題：「石本先生の作品と思い出」

講師：金子剛氏（東光会常任審査員）

日程：4月20日（日）

演題：「<石本秀雄展>に見る展示の移り変わり」

講師：上田香苗（当館学芸員）

日程：4月27日（日）

演題：「石本秀雄と佐賀県の図画教員について」

講師：野中耕介氏（佐賀県立博物館・美術館学芸員）



チラシ



ギャラリートーク



作品リスト

作家名	作品名	制作年	所蔵	紀要参照頁
石本秀雄	自画像	1929	岡田家	p.44
石本秀雄	室内小憩	1936	佐賀県立美術館	p.45
石本秀雄	籐椅子に凭る女	1936	佐賀県立美術館	p.45
石本秀雄	秋	1938	佐賀県立美術館	p.46
石本秀雄	庭と少女	1948	佐賀県立美術館	p.47
石本秀雄	画室	1949	佐賀県立美術館	p.47
石本秀雄	白い服の少女	1950	佐賀大学	p.49
石本秀雄	画室にて	1951	佐賀大学	p.49
石本秀雄	画家の家族	1951	佐賀県立美術館	p.50
石本秀雄	裸婦を描く	1952	佐賀県立美術館	p.51
石本秀雄	裸婦	不詳	岡田家	
石本秀雄	画学生の像	1953	佐賀県立美術館	p.51
石本秀雄	晩夏	1953	佐賀県立美術館	p.53
石本秀雄	オーバーの女	1960	岡田家	p.53
石本秀雄	女二人	1962	佐賀県立美術館	p.54
石本秀雄	K子座像	1968	佐賀県立美術館	p.54
石本秀雄	初秋の女	1969	岡田家	p.55
	スクリーン（衝立）			
	石本秀雄加筆風呂敷（棟方志功図案）	1960年前後	岡田家	
	中牟田佳彰作フレーム			
石本秀雄	ハリのモデル	素描 1964頃	岡田家	p.55
石本秀雄	TK（タキ夫人）	素描 1974	岡田家	

\*スクリーンと素描2点以外は油彩・キャンバス

## ② 経済学部50周年記念事業 芸術と経済—アートとお金の意外な関係

### 《展覧会概要》

「芸術」と「経済」をめぐる関係に着目し、通貨の成り立ちから貨幣の芸術性、オークションの仕組み、流通や取引など様々な角度から紹介。経済学部50周年記念事業の一環として、学部と大学美術館が共同で企画・運営にあたり、会期中には学内「来てみんしゃい！佐賀大学へ」の協力による2本の講演会をはじめ各種イベントを行い、終了後には報告書を作成した。

《会期》平成26(2014)年7月25日(金)～8月24日(日)

《開館日数》24日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、特別展示室

《主催》佐賀大学美術館 / 佐賀大学経済学部

《協力》森田孝志氏 / 佐賀大学地域学歴史文化研究センター

《資料提供 等》佐賀県立九州陶磁文化館、佐賀県立名護屋城博物館、佐賀県立博物館、ハウステンボス美術館、住友史料館、日本銀行、日本銀行金融研究所貨幣博物館、佐賀大学 e-ラーニングスタジオ、佐賀大学附属図書館、山本進氏、伊藤昭弘氏、山崎功氏

《展示構成》第I章—The money—貨幣経済のなりたちと役割

第II章—What's the value—お金・もの・芸術

第III章—Circulation—循環する経済と芸術

ビデオ—経済学部教員によるワンポイント解説

《入館者数》4,031名

《広報物》ポスター、チラシ、イベントチラシ、外看板、HP、FB

《配布資料》チラシ、イベントチラシ、パンフレット、報告書(パンフレット、報告書は p.35参照)



チラシ

### 《関連事業1》講演会①

日時：7月25日(金) 13:00

演題：「ミュージアムが地域経済を変える」

講師：養豊氏(兵庫県立美術館館長)

会場：大学会館2階多目的ホール

### 講演会②

日時：8月21日(木) 15:00

演題：「アートを巡る経済学」

講師：辛美沙氏(ギャラリスト、アートアドバイザー、MISA SHIN GALLERY 代表) 会

場：佐賀大学経済学部4号館2階5番教室

内容：養豊氏の講演は、MUSEUM が地域に及ぼす影響について、シカゴ美術館等海外での勤務経験や、初代館長を勤めた金沢21世紀美術館の実践例などからわかりやすく解説。辛美沙氏の講演は、ARTIST と MUSEUM と MARKET の関係、ビエンナーレとアートフェアの相違と相関関係など、豊富な現場体験に基づく刺激的なテーマだった。

### 《関連事業2》リレーギャラリートーク

日程：8月9日(土)

時間：10:00～芸術と経済—展覧会のみどころ/佐々木奈美子(当館学芸員)

11:00～村のコレクター/伊藤昭弘氏(佐賀大学地域学歴史文化研究センター准教授)

13:00～海を渡る陶磁器/藤原友子氏(佐賀県立九州陶磁文化館学芸員)

14:00～古銭にまつわるエトセトラ/森田孝志氏(佐賀県教育庁文化財課参事)

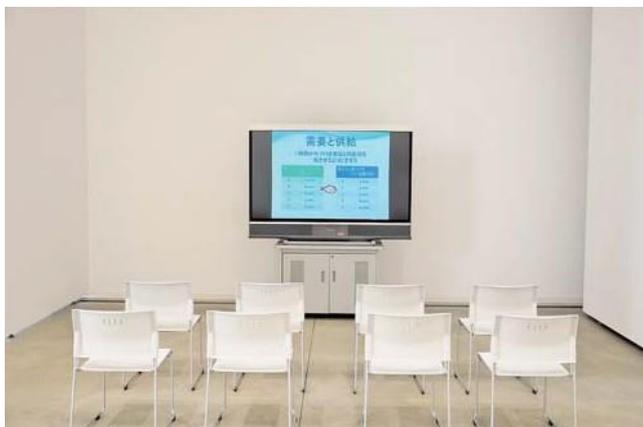
15:00～オークションと価格/中村博和氏(佐賀大学経済学部教授)

16:00～肥前磁器の楽しみ/上田香苗(当館学芸員)

### 《関連事業3》コインデザインワークショップ

日時：8月10日(日) 13:00～ 講師：荒木博申氏(佐賀大学文化教育学部教授)

内容：佐賀大学でデザインを担当する教員の指導で、デザインのイロハを学びながらコインの図案制作を行った。

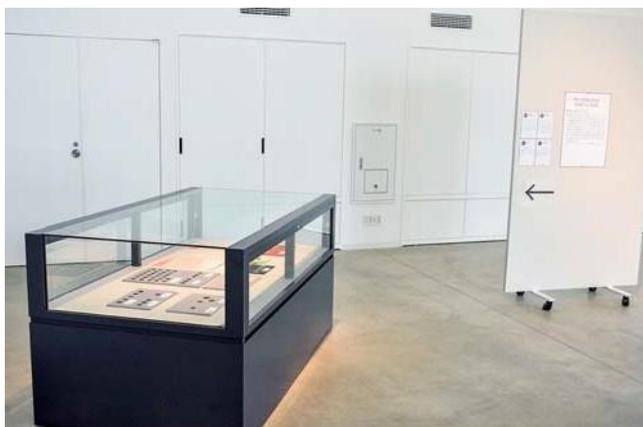


ビデオコーナー

## ビデオ上映 経済学部教員によるワンポイント解説

1	美術品の会計学	5分	小川哲彦 准教授
2	近代日本の陶磁器産業	6分	金子晋右 准教授
3	需要と供給、オークション	6分	中村博和 教授
4	お金の役割	8分	伊藤正哉 准教授
5	お金の犯罪	6分	内山真由美 准教授

制作：佐賀大学 e-ラーニングスタジオ



リレーギャラリートーク



コイデザインワークショップ

### ③ 【シリーズ美術・工芸】小木曾誠・徳安和博—飛翔する夢・森の中

《展覧会概要》文化教育学部美術・工芸教室の教員2名の絵画と彫刻を紹介。わずか7日間の会期だったが、油彩画の公開制作の実施や、

彫刻の制作過程を映像で流した他、展示スペースの左右で全く異なる世界が広がるような斬新な展示を試みた。

《会期》平成26(2014)年9月19日(金)～9月26日(金)

《開館日数》7日間

《会場》ギャラリー1・ギャラリー2・スタジオ

《主催》佐賀大学美術館

《入館者数》1,421名

《広報物》外看板、HP、FB(展示映像も一部公開)

《配布資料》パンフレット(P.35参照・生協を通じて販売:200円)

《関連事業》

ギャラリートーク

日程:9月20日(土)

時間:14:00～小木曾誠(佐賀大学文化教育学部准教授)

15:30～徳安和博(佐賀大学文化教育学部准教授)

内容:出品作家によるギャラリートーク。それぞれの作品の前で、見どころなどを解説し、多くの参加者があった。



作品リスト

作家名	作品名	制作年	所蔵
小木曾誠	セヒリア	2006	個人蔵
小木曾誠	蓮連たる楠	2007	
小木曾誠	ブリトビッツェ	2009	
小木曾誠	流れ	2009	
小木曾誠	柔脆な共存	2010	
小木曾誠	ボマッツォ	2010	個人蔵
小木曾誠	フィレンツェ	2011	個人蔵
小木曾誠	ドロヴニク	2013	個人蔵
小木曾誠	桜の光の中に	2014	
徳安和博	飛び立つ日を夢みる女	2002	
徳安和博	Shin	2002	
徳安和博	Shin(マケット)	2002	
徳安和博	母と子	2008	
徳安和博	母と子(マケット)	2008	
徳安和博	決意	2009	
徳安和博	始動	2012	
徳安和博	始動(マケット)	2012	
徳安和博	月の奇跡	2013	
徳安和博	月の奇跡(マケット)	2013	
徳安和博	朝におもい夕べにおもう	2013	長崎県立島原工業高校蔵
徳安和博	朝におもい夕べにおもう(マケット)	2013	
徳安和博	朝におもい夕べにおもう(マケット)	2013	

#### ④ 開館1周年記念 【所蔵品紹介】海老原喜之助

《展覧会概要》 本展を皮切りに、2階特別展示室にて大学所蔵品の順次公開を開始。

県立美術館に寄託扱いとなっている海老原喜之助の油彩画《衣を与う》を、学内に保管されていたリトグラフ等とともに紹介。

本展示に際して 行った油彩画《衣を与う》の修復経緯についても、パネルで紹介した。(修復については P.42参照)

《会期》平成26(2014)年9月19日(金)～11月9日(日)

《開館日数》45日間

《会場》特別展示室

《主催》佐賀大学美術館

《観覧者数》2,444名

《広報物》外看板、HP、FB

《配布資料》目録

#### 作品リスト

作家名	作品名		制作年
海老原喜之助	衣を与う	油彩・キャンバス	1956
海老原喜之助	人物	素描	不詳
海老原喜之助	蝶	リトグラフ	1956
海老原喜之助	本を焼く人	リトグラフ	1956
海老原喜之助	記念碑的像	リトグラフ	1956



《衣を与う》  
1956



## ⑤ 佐賀大学公開講座「世界の芸術文化 第一回：近現代ドイツの芸術運動」

《**展覧会概要**》文化教育学部の複数の研究室が分野をまたいで行ってきた世界の芸術文化に関する公開講座を共催。今回は近現代のドイツの芸術運動をメインテーマに3回の講座を開講。揺れ動く時代の中で、ドイツの芸術家たちは何を考え、どのような作品を生み出してきたのかを受講生と共に考える内容となった。

《**会期**》平成26(2014)年10月26日(日)、11月1日(土)、11月15日(土)

《**開館日数**》3日間

《**主催**》佐賀大学文化教育学部(欧米文化・西洋美術史研究室)／佐賀大学美術館

《**構成**》

- ・第1回「私たちの生活を変えたバウハウス・デザイン」

講師：古賀徹氏(九州大学芸術工学府准教授)

日程：10月26日(日) 時間：14:00～15:30

会場：佐賀大学美術館1階スタジオ

- ・第2回「時間芸術と空間芸術—レッシング芸術論の現代的意義」

講師：後藤正英氏(佐賀大学文化教育学部准教授)

日程：11月1日(土) 時間：14:00～15:30

会場：文化教育学部1号館2階102教室

- ・第3回「苦難の時代を生きる—ナチス台頭期のドイツの芸術家たち」

講師：佐々木奈美子(当館学芸員)

日程：11月15日(土) 時間：14:00～15:30

会場：文化教育学部1号館2階102教室

《**参加者数**》第1回36名/第2回45名/第3回22名

《**広報物**》ポスター、チラシ

《**配布資料**》各回レジュメ



チラシ



第1回



第2回



第3回

## ⑥ 佐賀大学所蔵 秘めたる名品展

《展覧会概要》 30年以上県立美術館に寄託扱いとなっている佐賀大学所蔵の作品7点の内、今年度すでに公開した石本秀雄、海老原喜之助を除く5点を紹介した。調査の過程で明らかとなった額裏のラベルをパネルにて紹介したり、あえて額をはずす等、工夫のある展示を行った。

《会期》平成26(2014)年11月21日(金)～12月7日(日)

平成27(2015)年1月17日(土)～3月15日(日)

《開館日数》65日間

《会場》特別展示室

《主催》佐賀大学美術館

《観覧者数》3,819名

《広報物》ポスター、チラシ、外看板、HP、FB

《配布資料》チラシ、目録



チラシ

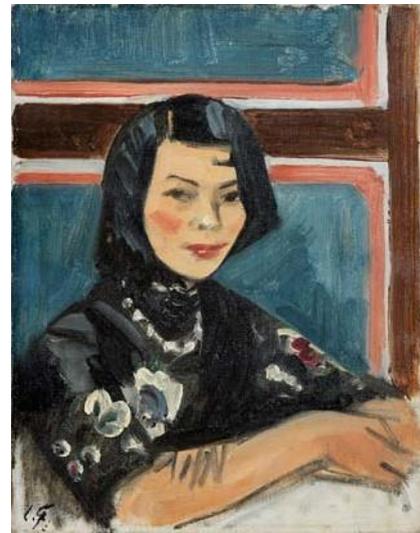


作家名	作品名	制作年
藤島武二	台湾娘	不詳
岡田三郎助	若き娘の顔	1913
辻永	須磨初秋	不詳
斎藤与里	婦人像	不詳
中西利雄	H嬢像	水彩 1943

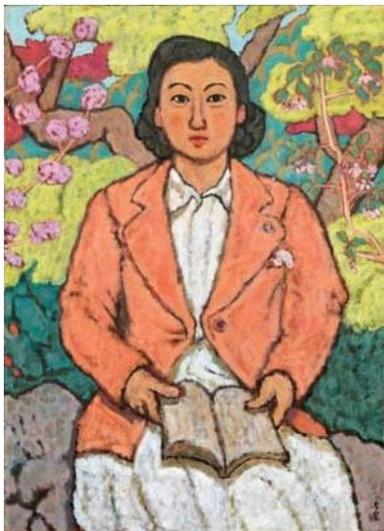
\*水彩1点以外は油彩・キャンバス



辻永《須磨初秋》



藤島武二《台湾娘》



斎藤与里《婦人像》



岡田三郎助《若き娘の顔》



中西利雄《H嬢像》

## ⑦ がんばるわたしたちの木版画展—佐賀大学特別支援学校高等部

《**展覧会概要**》 文化教育学部附属特別支援学校高等部の木版画カレンダー制作の取り組みを紹介。生徒たちが毎年5月からコツコツと作業を続けて完成させる木版画の手作りカレンダーについて、

過去の原画や版木、最新作などを展示した。本学で書道を学ぶ学生と共に挑戦した書のパフォーマンスの様子も映像で紹介。

《**会期**》平成27(2015)年1月17日(土)～1月29日(木)

《**開館日数**》11日間

《**会場**》ギャラリー1、ギャラリー2

《**主催**》佐賀大学美術館 / 佐賀大学文化教育学部附属特別支援学校

《**協力**》佐賀大学文化教育学部学校教育課程 教科教育選修国語(書写)分野

《**展示構成**》版画18点、版木2点、原画22点、カレンダー4点、書3

点、映像1点の計50点と生徒による木工・手工品

《**入館者数**》1,145名

《**広報物**》ポスター、チラシ、外看板、HP、FB

《**配布資料**》チラシ

《**関連事業**》

書のパフォーマンスとワークショップ

日程：12月19日(金)

時間：13:00～

内容：本学の学生が展覧会の題辞を書くパフォーマンスを見て、特別支援学校の生徒たちが、大筆を持って初めての一字書に挑戦した。

はんがワークショップ

日程：1月25日(日)

時間：13:30～15:30

内容：木版のすり体験、消しゴムはんこの彫り体験を行った。

すり体験では、特別支援学校の生徒が彫った版木を使用し、カレンダーの台紙にすった。彫り体験では、彫刻刀を使い消しゴムを彫って自分だけのオリジナルスタンプを作った。



チラシ



書のパフォーマンスとワークショップ





はんがワークショップ



はんがワークショップ

### (3) 美術館企画申請事業展示記録

#### 第5回 A DOMANI 展

佐賀大学美術・工芸課程で西洋画を学ぶ在校生32名と卒業生による作品約45点を展示。5回目となる今回より会場を佐賀大学美術館に移して開催した。

《会期》平成26(2014)年5月14日(水)～5月25日(日)

《開館日数》11日間 《会場》ギャラリー1、ギャラリー2

《主催》佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程(西洋画専攻)



#### 日本折紙学会 折紙探偵団・友の会九州展

折紙探偵団・九州友の会主催で、メンバーの作品の他、国内外の折紙作家・愛好家によるハイクオリティな作品群を展示。精緻な生き物造形やスタイリッシュな幾何学造形が並び、多くの来館者でにぎわった。

《会期》平成26(2014)年5月14日(水)～5月25日(日)

《開館日数》11日間 《会場》スタジオ

《主催》折紙探偵団・友の会九州



## 体験！ 富士町古湯映画祭—第31 回古湯映画祭—イベント

古湯映画祭を佐賀大学美術館で紹介。映画祭のイベントとして、貴重な映像、写真、関係者からの手紙など、これまで古湯映画祭30年を振り返る機会となった。

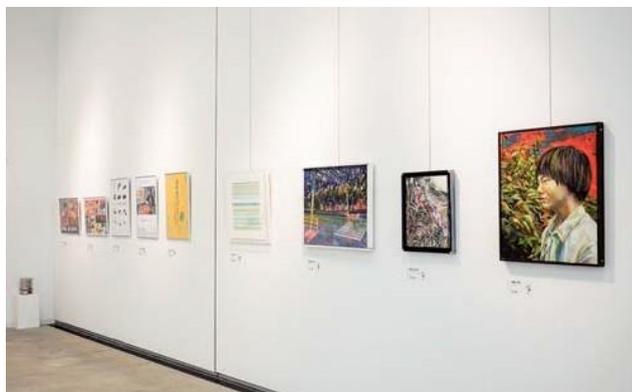
《会期》平成26(2014)年6月3日(火)～6月8日(日)  
《開館日数》6日間 《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ  
《主催》富士町古湯映画祭実行委員会



## 九州地区大学美術科 8BOXes 展

九州管内の教員養成系大学美術科は、それぞれ立地条件、歴史、規模、カリキュラム等が異なり、地域文化を反映した特色がある。学生の日頃の研究の成果を、各大学の美術科が同じサイズの箱に入れて佐賀大学美術館に送り、一堂に展示した。

《会期》平成26(2014)年6月18日(水)～6月29日(日)  
《開館日数》11日間 《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ  
《主催》日本教育大学協会九州地区美術部門



## デッサンの前と後ろ—美術・工芸講座の授業風景

佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程の素描の授業を美術館で行った。1年生を中心に院生や教員も含む約35人が石膏デッサンに取り組み、普通は見ることのできない制作過程や最終日の公開講評会を一般にも公開した。



《会期》平成26(2014)年7月3日(木)～7月18日(金)  
《開館日数》14日間 《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ  
《主催》佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程



## 第37回 二紀会佐賀支部

佐賀支部メンバー28人が水彩、油彩独特の色彩や迫力のある大型の作品を展示。また、二紀会理事による批評会や講演会も開催された。

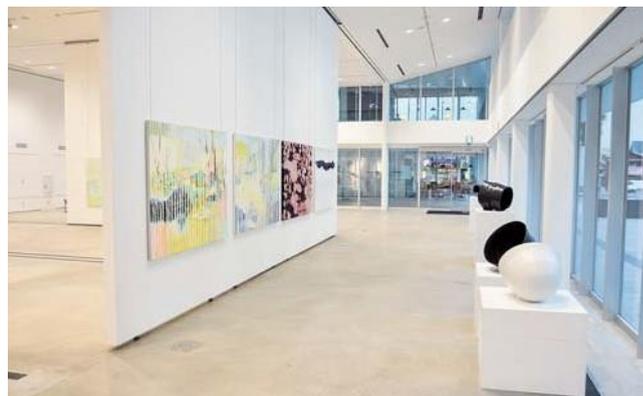
《会期》平成26(2014)年9月3日(水)～9月7日(日)  
《開館日数》5日間 《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ  
《主催》二紀会佐賀支部



## 道数（みちすう）展—佐賀大学で学んだ表現者たち

佐賀大学で美術を学び、現在もそれぞれ作家活動を続ける卒業生たちの展覧会。「道数」は、未知数と道の数だけの進路を表し、油絵、インスタレーション、陶芸、木工芸の作品が並んだ。

《会期》平成26(2014)年9月10日(水)～9月15日(月・祝)  
《開館日数》6日間 《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ  
《主催》道数展実行委員会



## 第28回 かな書道研究 佐賀蒼松会展

かな書道における佐賀県内最大会派「蒼松会」の社中展。古今和歌集など古典を題材に、変体かなや王朝かなで書いた和歌や短歌など65点が並んだ。

《会期》平成26(2014)年10月1日(水)～10月5日(日)  
《開館日数》5日間 《会場》ギャラリー1、ギャラリー2  
《主催》かな書道研究蒼松会



## 佐賀大学佐賀錦研究所開設記念 佐賀錦・鹿島錦展

佐賀大学に佐賀錦・鹿島錦に関する講座が開設されるにあたり、作品を紹介。ハンドバッグや帯留めなど、約100点が展示され、中でも鹿島錦保存会が3年がかりで織り、祐徳稲荷神社に寄進した几帳（縦2メートル、幅約1.5メートル）が話題となった。



《会期》平成26(2014)年10月1日(水)～10月19日(日)  
《開館日数》16日間 《会場》スタジオ  
《主催》佐賀大学佐賀錦研究所  
《後援》佐賀県・佐賀市・鹿島市



## Ecole de Seoul—韓国女流美術家展

ソウルで活動する女性画家による美術団体「エコール・ド・ソウル」のメンバー11名の展覧会。当館では初めて国外からの作品を迎え、韓国美術の今を感じる機会となった。

《会期》平成26(2014)年10月16日(木)～10月18日(土)  
《開館日数》3日間 《会場》ギャラリー1、ギャラリー2  
《主催》韓国女流美術家展実行委員会



## 平成26年度 JA 共済小・中学生第50回書道・第40回交通安全ポスターコンクール

佐賀県内の小・中学生の金賞から佳作までの受賞作品324点の作品が並び、受賞者の家族などが来館。10月25日には金賞を受賞した生徒の表彰式が開催された。

《会期》平成26(2014)年10月23日(木)～11月3日(月・祝)

《開館日数》11日間

《会場》ギャラリー1・ギャラリー2・スタジオ(25日のみ)

《主催》佐賀県内 JA / JA 共済連佐賀



## Tree for five—ワークショップ & インスタレーション

《概要》

平成28年の新学部開設に向けて5つの顔(文教・経済・理工・農・医学…佐賀大学の各学部の象徴)と胎児(新学部の象徴)を持つ大木の化身「キョボッキー」を展示室に出現させ、来館者と共にプラスチック板で制作した葉を飾り付けた。

《会期》平成26(2014)年10月28日(火)～11月9日(日)

《開館日数》12日間 《会場》スタジオ

《主催》佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程(西洋画専攻)



### 第3回佐賀大学コンテンツデザインコンテスト

「専門分野における成果（コンテンツ）を洗練し、その過程を理論的・方法的により良い表現（デザイン）として発信すること」が求められていることを背景に、佐賀大学が開催しているコンテスト。国内外を問わず参加者が集まり、入選作品の展示と、制作者自身による作品のプレゼンテーション、それらを加味した公開審査が行われた。

《会期》平成26(2014)年11月12日(水)～11月16日(日)

《開館日数》5日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室

《主催》佐賀大学 / 佐賀大学地域環境コンテンツデザイン研究所

《共催》C-revo、6者協定（佐賀県・佐賀県市長会・佐賀県町村会・佐賀県商工会議所連合会・佐賀県商工会連合会・佐賀大学）

《後援》佐賀新聞社、読売新聞西部本社、朝日新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、NHK 佐賀放送局、STS サガテレビ、エフエム佐賀、NBC ラジオ佐賀、CG-ARTS 協会



### 佐賀大学 美術・工芸課程 第56回総合展

佐賀大学美術・工芸課程の3年生を主体とした、伝統あるグループ展（佐賀大学美術館での開催は2回目）。展覧会が始まるまでは、学内でカウントダウン企画が行われ、会期中は展示作品に関連したワークショップや、メインストリートの並木を使った屋外展示などが企画された。

《会期》平成26(2014)年11月21日(金)～12月7日(日)

《開館日数》15日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室、中庭

《主催》佐賀大学文化教育学部 美術・工芸課程（第56回総合展実行委員会）



## 「医学のあけぼのから先端医療まで」展—300年の医学の進歩を可視化する

『解体新書』をはじめ佐賀藩の医学資料から、人工心臓や手術支援ロボット等の最先端医療機器や3Dの診断画像などを紹介。2階展示室では講演会が開催され、スタジオでは日替わりで医療メーカーによるデモンストレーションが行われた。

来館者は普段見る機会のない最先端医療器具を間近で見たり、体験することができる展覧会となった。

《会期》平成26(2014)年12月13日(土)

～平成27(2015)年1月12日(月・祝)

《開館日数》19日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、  
特別展示室、小展示室

《観覧料》500円(サガテレビにより徴収)

《主催》サガテレビ / 佐賀大学

《共催》佐賀県医師会

《後援》佐賀市医師会、佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会、  
佐賀新聞社、西日本新聞社

《関連事業》公開講座 全て11:00～12:00

日時: 12月13日(土)

演題: 「黎明期の我が国医学」

講師: 青木歳幸氏

(地域学歴史文化研究センター特命教授)

日時: 12月20日(土)

演題: 「どこまで見えるの?最先端の画像診断」

講師: 中園貴彦氏(医学部放射線部准教授)

日時: 12月21日(日)

演題: 「心臓手術の過去、現在、未来」

講師: 森田茂樹氏(医学部胸部・心臓血管外科教授)

日時: 12月23日(火・祝)

演題: 「ロボットリハビリテーションについて学ぼう!」

講師: 浅見豊子氏(医学部先進総合機能回復センター診療教授)

日時: 平成27年1月7日(水)

演題: 「人工関節のあゆみと佐賀大学の新たな取り組みについて」

講師: 江頭秀一氏(医学部整形外科医員)

日時: 平成27年1月12日(月・祝)

演題: 「がんは予防できる?」

講師: 藤本一真氏(医学部消化器内科教授)





《種痘の図》(佐賀県医療センター好生館所蔵)を展示



デビンチ実演

## 景観啓発パネル展

佐賀大学美術館が「第18回佐賀市景観賞」を受賞したのを機に、過去の景観賞受賞作品および景観重要建造物等を写真で紹介。初日には表彰式とパネルディスカッションも開催。

《会期》平成27(2015)年1月22日(木)～1月29日(木)  
 《開館日数》7日間 《会場》スタジオ  
 《主催》佐賀市



表彰式

## 第45回 水彩連盟佐賀支部展(白水会)

18名の作家による水彩画展。従来の「水彩画」のイメージに囚われることなく、アクリル、ガッシュ(不透明水彩)などを用いて多様な可能性を追求した。F50号から100号まで、33点が並んだ。

《会期》平成27(2015)年2月3日(火)～2月8日(日)  
《開館日数》6日間 《会場》ギャラリー1、ギャラリー2  
《主催》水彩連盟佐賀支部



## 文化教育学部美術・工芸課程 卒業制作展/教育学研究科美術 修了制作展

本学で美術・工芸を学んだ学部生・院生による卒業・修了制作展。当館では2度目の開催となり、学生同士知恵を出し合いながら、また、今までのお互いの経験を活かしながら試行錯誤し学生生活の集大成となる作品の展示空間を自分たちで作上げた。

《会期》平成27(2015)年2月20日(金)～2月28日(土)  
《開館日数》8日間  
《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室  
《主催》佐賀大学文化教育学部・佐賀大学大学院教育学研究科



## 彫刻集団・佐賀 第29 回展

佐賀大学の美術・工芸課程の卒業生や、県内で活動する彫刻家で作る「彫刻集団・佐賀」の第29回展。元佐賀美術協会理事長の成富宏氏や、佐賀大学の現教員を含む、17人の作家たちの作品が並んだ。

《会期》平成27(2015)年3月4日(水)～3月8日(日)  
《開館日数》5日間 《会場》ギャラリー2、スタジオ  
《主催》彫刻集団・佐賀



## 佐賀大学デジタル表現者養成プログラム(第5期生)修了作品展—電腦芸術展

佐賀大学で「デジタル表現技術者養成プログラム」を学んだ学生による修了研究作品展。CGアニメーションやドキュメンタリー、プロジェクションマッピングなど多種多様な作品が展示され、最終日には九州産業大学芸術学部の佐野彰氏による特別講演会も開催された。

《会期》平成27(2015)年3月5日(木)～3月8日(日)  
《開館日数》4日間 《会場》ギャラリー1 小展示室  
《主催》佐賀大学eラーニングスタジオ

## 第16回 卒業書作展

佐賀大学文化教育学部の国語科（書写）教室の学生による書道作品展。4年生の卒業書作をはじめ、1年生から3年生は学年ごとに1作品ずつと教員1名の展示。また、12月に特別支援学校を訪問した際に書道のパフォーマンスをした様子のビデオ上映も行った。



《会期》平成27(2015)年3月10日(火)～3月15日(日)  
《開館日数》6日間 《会場》小展示室  
《主催》佐賀大学文化教育学部学校教育課程 教科教育選修 国語（書写）分野



## 工学系研究科都市工学専攻・理工学部都市工学科

理工学部都市工学科4年生が卒業研究において設計した建築・都市デザインに関する卒業制作を図面・模型により展示。丹羽賞・優秀賞・奨励賞受賞者4名のほか計13組の作品及び3年生優秀作品の展示を行った。



## 修士制作・卒業制作展

《会期》平成27(2015)年3月18日(水)～3月27日(金)  
《開館日数》9日間 《会場》小展示室  
《主催》佐賀大学大学院工学系研究科都市工学専攻・佐賀大学理工学部都市工学科



## (4) プロムナード利用記録

### 日本フィル・金管五重奏プロムナードコンサート

平成27年2月の日本フィルハーモニー交響楽団の本公演を前に、日本フィル佐賀公演を支える佐賀大学管弦楽団と、日本フィルの楽団員が共同で開催したプレコンサート。九州出身の金管奏者のレベルの高い演奏と、合間に楽器の説明なども交え、初心者でもわかりやすく楽しめるコンサートとなった。

《会期》平成26(2014)年10月24日(金) 12:10~12:50

《会場》プロムナード

《主催》日本フィル佐賀公演実行委員会

《共催》佐賀大学管弦楽団



### 佐賀大学管弦楽団 プレコンサート

佐賀大学管弦楽団が12月21日に開催する定期演奏会を前に、佐賀大学美術館のプロムナードで行ったプレコンサート。寒風が強く吹く中、楽団員たちが日頃の練習の成果を披露した。

《会期》平成26(2014)年12月18日(木) 12:10~12:50

《会場》プロムナード

《主催》佐賀大学管弦楽団

## (5) 実習・研修

### 〔監視・受付実習〕

《期間》平成26(2014)年10月9日(木)～11月28日(金)

《参加者》32名

《内容》学芸員資格取得を希望する1～3年生の学内実習。

主に当館主催の展覧会「開館一周年記念海老原喜之助」「秘めたる名品展」において、1人7時間相当の監視実習を行った。参加者は監視や受付に入って気づいた事などをレポートで提出。美術館職員がコメントを返す形で質問に答えた。



### 〔燻蒸実習〕

《期間》平成26(2014)年10月18日(土)・10月29日(水)

《参加者》18名

《内容》新収蔵作品を収蔵庫に入れる前に殺カビ・殺虫を目的として実施した燻蒸作業(p.42参照)の一部を博物館実習2年目の学生が見学及び体験できる形とした。後日、作業結果報告として、実施業者からの説明を聞いた。



## 〔学芸員技術研修会：展示グラフィック〕

《期間》平成26(2014)年12月17日(水)

《講師》熊谷淳一氏(株式会社ノイエデザイン代表)

《参加者》21名

《会場》佐賀大学工学部1号館1階(地域連携デザイン工房)

《内容》九州産業大学の主催で、学芸員等博物館関係者を対象にした研修会が九州各地で開催されており、「展示グラフィック」は佐賀大学を会場に行われた。美術館のチラシを作成するうえでの基礎や、他館チラシの相互評価など、グループワークを交えながら広報物における「伝える技術」の向上を図った。



## 〔職員の研修・館外活動〕

佐々木奈美子

日時：平成26年7月5日

場所：福岡市博物館

目的：九州藝術学会第10回記念大会発表：「石本秀雄に見る西洋美術の影響」

大塚麻理子

日時：平成27年1月22日

場所：九州産業大学

目的：平成26年度博物館実習報告会参加

佐々木奈美子

日時：平成27年1月22日～23日

場所：手塚治虫記念館、宝塚市役所

目的：宝塚市新規文化芸術施設建設に伴う意見交換会の出席

## (6) 刊行物

〔刊行物〕

パンフレット「経済学部50周年記念事業

芸術と経済—アートとお金の意外な関係」

《概要》 展覧会内容抜粋・解説 / 経済学部の学科・研究室の紹介

《仕様》 A5版16ページ+裏表方観音折 4ページ 4色刷

《編集・発行》 佐賀大学美術館・佐賀大学経済学部

《発行部数》 4,000部

《発行日》 平成26年7月25日



活動報告書「経済学部50周年記念事業

芸術と経済—アートとお金の意外な関係」

《概要》 展覧会概要 / 報告 / 出品目録 / 講演会

抄録 / イベント関係 / 刊行物・制作物 /

アンケート集計結果

《仕様》 A4版 32ページ 4色刷

《編集》 佐賀大学美術館

《発行》 佐賀大学経済学部

《発行部数》 500部

《発行日》 平成27年3月10日



パンフレット「シリーズ美術・工芸教室

小木曾誠・徳安和博—飛翔する夢・森の中」

《概要》 巻頭エッセイ / 出品カタログ / 絵葉書4種

《仕様》 A5版16ページ+裏表方観音折 4ページ 4色刷

《編集・発行》 佐賀大学美術館

《発行部数》 2,000部

《発行日》 平成26年9月19日



## (7) 掲載紙・テレビ取材等

※本頁は館主催事業についての報道のみ抜粋。

平成26年度は総数で新聞等140件、TV・ラジオ34件が掲載・放送された。

- ・ニュース「石本秀雄展」(3月20日 NHK)
- ・特美の創始者 石本秀雄のアトリエ展(4月1日 佐賀新聞、4月4日 西日本新聞)
- ・記者だより「佐賀大学美術館 芸術・工芸の文化発信」(4月6日 西日本新聞)
- ・石本秀雄のアトリエ展(4月10日 読売新聞、4月17日 朝日新聞)
- ・石本秀雄さん絵画展(4月24日 読売新聞)
- ・佐賀大特美創設者 家族の絵も(4月27日 朝日新聞)
- ・サガアートトリップ「佐賀を巡りアートを楽しむ」(5月15日 読売新聞)
- ・九州発 大学の實力 佐賀大学芸術学部 教育学部 新生へ(6月 読売新聞社広告局)
- ・地域と結ぶ 佐賀大学法人化の10年(上) 変化(7月25日 佐賀新聞)
- ・芸術と経済—アートとお金の意外な関係(6月27日 佐賀新聞、7月12日 佐賀新聞)
- ・さんさんネット(7月24日 朝日新聞)
- ・芸術と経済—アートとお金の意外な関係(7月26日 佐賀新聞、7月29日 佐賀新聞)
- ・共同企画展「アートとお金の意外な関係」(8月7日 朝日新聞)
- ・佐賀大美術館「芸術と経済」展/お金×美術 関係ひも解く(8月12日 佐賀新聞)
- ・芸術と経済—アートとお金の意外な関係(8月14日 佐賀新聞、8月21日 読売新聞)
- ・ニュース(8月20日 サガテレビ)
- ・佐賀大学美術館1周年(9月13日 佐賀新聞)
- ・小木曾誠・徳安和博—飛翔する夢・森の中(8月29日 佐賀新聞、9月14日 佐賀新聞、9月19日 佐賀新聞)
- ・実力派の「今」代表作で追う/佐賀大の徳安・小木曾准教授が2人展(9月23日 佐賀新聞)
- ・2年目へ挑む展示/絵と彫刻 異なる世界観 佐賀大学美術館(9月23日 朝日新聞)
- ・開館1周年記念 海老原喜之助展(8月29日 佐賀新聞、9月14日 佐賀新聞、9月19日 佐賀新聞、9月30日 佐賀新聞、10月3日 佐賀新聞、10月9日 佐賀新聞、10月31日 佐賀新聞)
- ・所蔵品紹介 海老原喜之助展(10月2日 朝日新聞、10月16日 朝日新聞)
- ・佐賀大学美術館入館者5万人/開館1年で達成/荒巻さん親子に記念品(10月25日 佐賀新聞)
- ・佐賀大学美術館入館者5万人を突破(10月30日 読売新聞)
- ・佐賀大学美術館 入館5万人に、開館1年で達成(11月5日 朝日新聞)
- ・公開講座(10月25日 佐賀新聞)
- ・佐賀大学所蔵 秘めたる名品展(10月31日 佐賀新聞、11月20日 朝日新聞、11月28日 佐賀新聞、12月14日 佐賀新聞、12月30日 佐賀新聞、1月29日 朝日新聞、1月30日 佐賀新聞)
- ・特別支援学校・木版画展(12月30日 佐賀新聞)
- ・がんばるわたしたちの木版画展(1月15日 読売新聞、1月22日 朝日新聞)
- ・高等部での生活 版画で生き生き(1月19日 佐賀新聞)
- ・木版画で活動PR(1月21日 毎日新聞)
- ・額外し、名画の“秘密”紹介(1月23日 佐賀新聞)
- ・STS ニュース(1月27日 サガテレビ)
- ・建物の所有者らを表彰 29日までパネル展も(1月24日 読売新聞)
- ・都市景観賞3件を選出 佐賀市(1月26日 西日本新聞)
- ・佐賀市景観賞に選出(1月28日 佐賀新聞)
- ・佐賀市景観賞展(1月 建設新聞、1月 ぶんぶんテレビ)
- ・まちかどカレンダー(1月26日 佐賀新聞)
- ・さるく佐賀季節ごと変わる表情/佐賀大美術館近くの並木道(2月21日 朝日新聞)

### [掲載誌]

- ・ポーラ美術館コレクション広報タブロイド紙A3版「サガアートトリップ」4月号「美術館情報」
- ・JR九州情報誌 Please 5月号 No.324「美術館情報」
- ・福岡 WALKER 6月号「美術館情報」
- ・ぶらぶら美術・博物館プレミアムアートブック2015-2016「美術館情報」
- ・生活情報誌ポス 熊本版 11月号VL・125「ミュージアムカフェ情報」
- ・PASSION 11月号 vol.36「美術館情報」
- ・Musée ミュゼd・110「芸術で地域を拓き芸術で世界を拓く 佐賀大学美術館」

## (8) 見学団体・入館者数

### 〔見学団体一覧〕

※事前連絡および申告にて把握できた団体名称及び人数

期日	団体名	人数	期日	団体名	人数
4月23日	高砂会	26	10月3日	福岡県立小郡高等学校 PTA	50
5月14日	「日本工芸史」受講者	62	10月3日	育西会 熊本県立熊本西高等学校 PTA	42
5月15日	「芸術の歴史と理論(絵画のみかた)」受講者	20	10月7日	福岡県立大川樟風高等学校 PTA	20
5月16日	学校法人本願寺学園 若楠幼稚園	33	10月8日	学校法人旭学園 佐賀女子短期大学付属 佐賀女子高等学校ファッション文化コース	22
5月16日	「西洋画」受講者	21	10月8日	福岡県立福岡中央高等学校 PTA	75
5月16日	佐賀県立小城高等学校 美術部	11	10月9日	福岡県立春日高等学校 PTA	100
	学校法人旭学園 佐賀女子短期大学付属		10月10日	福岡県立北筑高等学校 PTA	40
5月17日	佐賀女子高等学校	94	10月18日	佐賀県退職公務員連盟佐賀支部	26
5月17日	学校法人君が淵学園 崇城大学	49	10月24日	有限会社肥前観光	21
5月18日	ニチイケアセンターさが	11	10月28日	学校法人精幼稚園	11
5月20日	勸興ウォーキングクラブ	11	11月13日	佐賀市立北山東部小学校	7
5月21日	社会福祉法人報土会 保育所 めぐみ園	34	11月22日	佐賀大学文化教育学部附属中学校 美術部	20
5月22日	学校法人精幼稚園	17	12月2日	学校法人佐賀理容美容専門学校	23
5月23日	福生苑デイサービスセンター	14	12月2日	ラジ&ウォーク	16
6月4日	諸富町西寺井ふれあいサロン	21	12月2日	学校法人旭学園 佐賀女子短期大学付属 佐賀女子高等学校	39
6月5日	「大学入門科目Ⅰ」受講者	14	12月4日	「図工科教育法Ⅱ」受講者	51
6月7日	学校法人佐賀龍谷学園 龍谷高等学校 1年生	92	12月4日	佐賀県立鳥栖商業高等学校	45
6月7日	神埼郷土研究会	24	12月4日	「図工科教育法Ⅱ」受講者	23
6月18日	「芸術創造Ⅱ」受講者	16	12月7日	佐賀県立唐津東高等学校	8
6月19日	NPO 法人長崎市美術振興会	30	12月16日	「医工学入門」受講者	54
6月20日	長崎県立波佐見高等学校 2年生(美術・ 工芸科)	22	12月17日	「西日本地域史論」受講者	19
7月5日	教員免許講習	15	1月8日	国際文化課程 学生	31
8月4日	佐賀県立唐津西高等学校 PTA	23	1月27日	学校法人精幼稚園	22
8月6日	熊本市立必由館高等学校美術部	27	2月5日	国立大学法人等監事協議会	40
9月3日	佐賀大学新採用職員研修	14	2月21日	佐賀市立城東中学校	20
9月13日	NPO 法人地球市民の会	20	2月27日	二十日会	20
9月14日	理工学部工業化学科	10	3月4日	新日本婦人の会	20
9月26日	佐賀県立香楠中学校 3年生	75	3月14日	江北町立江北中学校 美術部	14
10月1日	PTA	83			
10月2日	育友会 熊本県立東稜高等学校 PTA	42			

平成26年4月23日～平成27年3月14日

## 〔事業別入館者一覧〕

※数値に重複あり

展覧会	入館者数	会期	日数	主催	展示会場
特美の創設者 石本秀雄のアトリエ展	4518	3月20日-5月6日	42	佐賀大学美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
第5回 A DOMANI 展	3513	5月14日-25日	11	佐賀大学文化教育学部 美術・ 工芸課程(西洋画専攻)	ギャラリー1、ギャラリー2
日本折紙学会 折紙探偵団・友の会九州展				折紙探偵団・友の会九州	スタジオ
体験! 富士町古湯映画祭-第31回古湯映画祭ブレイベント	1279	6月3日-8日	6	富士町古湯映画祭実行委員会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
九州地区大学美術科 8BOXes 展	1442	6月18日-29日	11	日本教育大学協会九州地区美術部 門	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
デッサンの前と後ろ -美術・工芸講座の授業風景	1924	7月3日-18日	14	佐賀大学文化教育学部美術・ 工芸課程	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
芸術と経済-アートとお金の意外な関係	4031	7月25日-8月24日	24	佐賀大学美術館/佐賀大学経済学 部	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ 特別展示室
第37回 二紀会 佐賀支部展	1059	9月3日-7日	5	二紀会佐賀支部	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
道数(みちすう)-佐賀大学で学んだ表現者たち	664	9月10日-15日	6	道数展実行委員会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
シリーズ美術・工芸 小木曾誠・徳安和博展	1421	9月19日-26日	7	佐賀大学美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
開館1周年記念 海老原喜之助展	2444	9月19日-11月9日	45	佐賀大学美術館	特別展示室 ※観覧者実数
第28回 かな書道研究 蒼松会	3556	10月1日-5日	5	かな書道研究 蒼松会	ギャラリー1、ギャラリー2
佐賀大学佐賀錦研究所開設記念 佐賀錦・鹿島錦展		10月1日-19日	16	佐賀大学佐賀錦研究所	スタジオ
Ecole de Seoul-韓国女流美術家展		10月16日-18日	3	韓国女流美術家展実行委員会	ギャラリー1、ギャラリー2
平成26年度 JA 共済小・中学生第50回書道・第40回交通安全ポスターコンクール	4409	10月23日-11月3日	11	佐賀県内 JA / JA 共済連佐賀	ギャラリー1、ギャラリー2
Tree for Five		10月28日-11月9日	12	佐賀大学文化教育学部 美術・ 工芸課程(西洋画専攻)	スタジオ
佐賀大学公開講座「世界の芸術文化」	103	10月26日・11月1日、 15日	3	佐賀大学文化教育学部、佐賀 大学美術館	スタジオ(3回中2回は館外) ※参加者実数
第3回 コンテンツデザインコンテスト	1147	11月12日-16日	5	佐賀大学/佐賀大学地域環境 コンテンツデザイン研究所	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ 小展示室
佐賀大学 美術・工芸課程 第56回総合展	2830	11月21日-12月7日	15	佐賀大学文化教育学部 美術・ 工芸課程(第56回総合展実行 委員会)	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ 小展示室、中庭
佐賀大学所蔵 秘めたる名品展	3819	11月21日-12月7日、 1月17日-3月15日	65	佐賀大学美術館	特別展示室 ※観覧者実数
医学のあけぼのから先端医療まで展 -300年の医学の進歩を可視化する	2652	12月13日-1月12日	19	サガテレビ、佐賀大学	全館 ※観覧者実数
がんばるわたしたちの木版画展 -佐賀大学特別支援学校高等部	1145	1月17日-29日	11	佐賀大学美術館/佐賀大学附 属特別支援学校	ギャラリー1、ギャラリー2
景観啓発パネル展		1月22日-29日	7	佐賀市	スタジオ
第45回 水彩連盟佐賀支部展(白水会)	749	2月3日-8日	6	水彩連盟佐賀支部	ギャラリー1、ギャラリー2
文化教育学部美術・工芸課程 卒業制作展	2116	2月20日-28日	8	佐賀大学文化教育学部・佐賀 大学大学院教育学研究科	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ 小展示室
教育学研究科美術 修了制作展				彫刻集団・佐賀 第29回展	3月4日-8日
佐賀大学デジタル表現者養成プログラム(第5期生)修了作品展-電脳芸術展	1216	3月5日-8日	4	佐賀大学 e-ラーニングスタジオ	ギャラリー1、小展示室
第16回 卒業書作展	749	3月10日-15日	6	佐賀大学文化教育学部 学校 教育課程(教科教育選修 国語 (書写)分野)	小展示室
工学系研究科都市工学専攻・理工学部都市工学科 修士制作・卒業制作展	810	3月18日-27日	9	佐賀大学大学院工学系研究科 都市工学専攻・佐賀大学理工 学部都市工学科	小展示室

平成26年3月20日～平成27年3月27日

## 〔年度別入館者実績〕

※数値に重複なし

	総入館者数	うち有料入館者数	開館日数
平成25年度	27167	0	125
平成26年度	40780	2652	254

平成25年10月2日～平成27年3月31日

## (9) 作品管理・保管

### [平成26年度新収蔵作品]

平成26年度に佐賀大学の所蔵となった物品の内、佐賀大学美術館が保管もしくは管理する作品。

収蔵年	作家名	作家名_E	作品名	作品名_E
2014	石本秀雄	ISHIMOTO, Hideo	トレド	Toledo
2014	石本秀雄	ISHIMOTO, Hideo	オーバーの女	Woman Wearing a Coat
2014	石本秀雄	ISHIMOTO, Hideo	自画像	Self-portrait
2014	石本秀雄	ISHIMOTO, Hideo	パリのモデル	Model in Paris
2014	石本秀雄	ISHIMOTO, Hideo	スケッチブック	Sketch Book
2014	石本秀雄	ISHIMOTO, Hideo	自筆ノート(西洋美術史)	Notebook : Western Art History
2014	石本秀雄	ISHIMOTO, Hideo	自筆ノート(講演)	Notebook : Lecture
2014	石本秀雄	ISHIMOTO, Hideo	手鏡の女	Woman with a Mirror
2014	石本秀雄	ISHIMOTO, Hideo	橙と卓上の静物	Still Life on the Table
2014	藤田隆治	FUJITA, Takaharu	五ひき	Five Owls
2014	石本秀雄	ISHIMOTO, Hideo	カンナの花	Flowers of Canna
2014	井手誠一	IDE, Seiichi	銀杏並木秋景	Ginkgo Trees in Autumn
2014	上杉耕司	UESUGI, Koji	岩と波海原	Coast; Rocks and the Wave
2014	小野正人	ONO, Masato	パラグアイの農家	Farm House in Paraguay
2014	小野正人	ONO, Masato	金盞花	Calendula
2014	北嶋兵一	KITAJIMA, Hyouchi	本栖高原	Motosu Kogen
2014	古瀬虎麿	KOSE, Koroku	あじさい	Hydrangea
2014	下川都一郎	SHIMOKAWA, Toichiro	牛	Bull
2014	立石春美	TATEISHI, Harumi	鯉	Carp
2014	田中宗一	TANAKA, Soichi	古湯雄渕	Obuch; in Furuyu
2014	手島 貢	TESHIMA, Mitsugu	阿蘇早春	Mt. Aso in early Spring
2014	納富 進	NOTOMI, Susumu	雲仙	Mt. Unzen
2014	納富 進	NOTOMI, Susumu	夏の岬	Cape in Summer; the Ariake
2014	久富邦夫	HISATOMI, Kunio	麦秋	Early Summer
2014	久富邦夫	HISATOMI, Kunio	呼子(初秋)	Yobuko, Harbor in early Autumn
2014	宮地 亨	MIYACHI, Toru	燈火小閑	Moment of Evening Lights
2014	宮地 亨	MIYACHI, Toru	壱岐	Iki island
2014	村岡平蔵	MURAOKA, Heizo	夏の果物	Summer Fruits
2014	村岡平蔵	MURAOKA, Heizo	西熱海	Nishi Atami
2014	村岡平蔵	MURAOKA, Heizo	新緑	Fresh Verdure in early Summer
2014	若林景光	WAKABAYASHI, Kagemitsu	ユーカリ樹のある庭	Garden of Eucalyptus Trees
2014	若林景光	WAKABAYASHI, Kagemitsu	川上の風景	Landscape of Kawakami
2014	若林景光	WAKABAYASHI, Kagemitsu	商工会館	Chamber of Commerce Building
2014	成富 宏	NARITOMI, Hiromu	雷	Thunder

分類	制作年（和暦）	制作年（西暦）	寸法（HxWxD）	素材	出品歴	寄贈者
西洋画	昭和41年	1966	130 1×97 0	油彩・カンヴァス	第32回東光展	岡田章子氏
西洋画	昭和35年	1960	145 2×97 3	油彩・カンヴァス	第26回東光展	岡田章子氏
西洋画	昭和4年	1929	45 4×37 8	油彩・カンヴァス		岡田章子氏
デッサン	昭和39年頃	ca.1964	44 7×30 6	コンテ・紙（灰色）		岡田章子氏
	昭和3～6年頃	1928～31	18 6×12 8×2 3	紙・鉛筆、一部水彩		岡田章子氏
	昭和24年～	1949～	25 8×18 2	紙・鉛筆		岡田章子氏
	昭和24年～	1949～	25 8×18 2	紙・鉛筆		岡田章子氏
デッサン	昭和38年	1963	25 9×18 3	鉛筆・紙（印刷物裏面）		金子 剛氏
デッサン	昭和38年	1963	25 9×18 0	鉛筆・紙（印刷物裏面）		金子 剛氏
日本画	昭和36年頃	ca.1961	96 3×159 3	紙本着色（岩絵具・紙）		中牟田家
西洋画			45 4×37 6	油彩・カンヴァス		旧佐賀商工会館
西洋画	昭和33年	1958	37 8×45 6	油彩・カンヴァス		旧佐賀商工会館
西洋画	昭和15年	1940	33 3×45 6	油彩・カンヴァス		旧佐賀商工会館
西洋画	昭和37年	1962	33 6×45 7	油彩・カンヴァス		旧佐賀商工会館
西洋画	昭和35年	1960	40 9×31 8	油彩・カンヴァス		旧佐賀商工会館
西洋画	昭和34年	1959	37 9×45 5	油彩・カンヴァス		旧佐賀商工会館
西洋画			41 1×32 1	油彩・カンヴァス		旧佐賀商工会館
西洋画			31 8×40 4	油彩・カンヴァス		旧佐賀商工会館
日本画			51 5×57 3（本紙）	絹本着色		旧佐賀商工会館
水彩画	昭和36年	1961	34 0×46 0	水彩・紙		旧佐賀商工会館
西洋画			45 7×60 5	油彩・カンヴァス		旧佐賀商工会館
西洋画			72 7×91 1	油彩・カンヴァス		旧佐賀商工会館
西洋画			37 8×45 5	油彩・カンヴァス		旧佐賀商工会館
西洋画			45 5×37 9	油彩・カンヴァス		旧佐賀商工会館
西洋画	昭和31年	1956	24 3×33 3	油彩・カンヴァスボード		旧佐賀商工会館
西洋画	昭和40年	1965	145 5×97 0	油彩・カンヴァス	第8回日展	旧佐賀商工会館
西洋画			24 2×33 0	油彩・カンヴァスボード		旧佐賀商工会館
西洋画			37 8×45 6	油彩・カンヴァス		旧佐賀商工会館
西洋画			31 9×40 9	油彩・カンヴァス		旧佐賀商工会館
西洋画	昭和38年	1963	53 0×45 7	油彩・カンヴァス		旧佐賀商工会館
西洋画	昭和30年	1955	38 1×45 6	油彩・カンヴァス		旧佐賀商工会館
西洋画	昭和41年	1966	53 0×45 3	油彩・カンヴァス		旧佐賀商工会館
西洋画	昭和32年	1957	53 5×65 3	油彩・カンヴァス		旧佐賀商工会館
彫刻	平成16年	2004	146×65×80	ブロンズ		

※平成27年3月19日屋外彫刻として設置

## 〔 作品修復 〕

作者名：海老原喜之助

作品名：衣を与う

点 数：1点

修復作業期間：平成26年8月19日（火）～21日（木）

委託先：絵画修復 たけのした工房

作業内容

\* 作業前の状態

- ・画面の絵の具層は油分が失われて、接着力がなくなり、亀裂・剥離・層間剥離・剥落が全面に現れている。

\* 保存修復処置内容

- ・画面の絵の具層の亀裂・剥離・層間剥離・剥落箇所に膠水を数回注入し、固着。
- ・絵の具層の剥落箇所の充填、成形。
- ・表面、裏面の殺菌、防黴処置。
- ・側面部分の張り調整のための補強。

## 〔 燻蒸 〕

作品：新収蔵作品33点

燻蒸作業期間：平成26年10月18日（土）～20日（月）

場所：2階小展示室にテントを設営して実施

## 〔 作品貸出記録 〕

「生誕110年 海老原喜之助展」

場所：下関市立美術館／横須賀美術館

会期：平成26年11月15日（土）～12月28日（日）/平成27年2月7日（土）～4月5日（日）

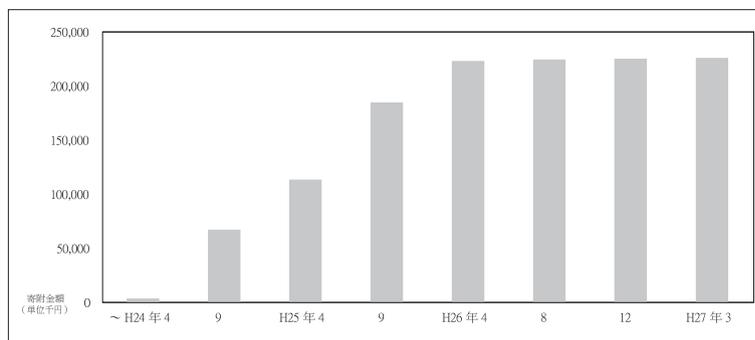
貸出作品：海老原喜之助「衣を与う」1956年

図録掲載：「生誕110年 海老原喜之助展」（鹿児島市立美術館/下関市立美術館/横須賀美術館）no. 85, p. 88.

## (10) 寄附状況

### 〔美術館設置募金の経緯〕

平成23年6月 美術館設置募金 WG 設置  
平成24年4月 美術館設置事業募金開始  
平成25年6月 寄附者芳名帳の公開を開始  
平成25年6月 美術館規則の制定に伴い、  
美術館設置募金 WG を解散  
平成25年9月 美術館に高額寄附者銘板  
を設置  
平成25年10月 美術館開館後も美術館設置事  
業募金を継続  
平成27年3月 募金総額226,040,276円  
(平成27年3月31日現在)



## (11) 関係規則等

- ① 佐賀大学美術館規則
- ② 佐賀大学美術館運営委員会規程
- ③ 佐賀大学美術館評価専門委員会要項
- ④ 佐賀大学企画専門委員会要項
- ⑤ 佐賀大学美術館利用規程
- ⑥ 佐賀大学寄贈・寄託専門委員会要項

## II 自己点検・評価

### 平成26年の美術館事業等について

平成25年度10月の開館以来、国立総合大学の美術館として、60年の伝統を持つ美術・工芸教室の歴史と活動を反映しつつ、開かれた大学を象徴する施設として活動を継続している。これは大学美術館として、一般の公立美術館との差別化という意味で重要な観点であると同時に、他大学にはない大学の強みの一つと位置付けられる。

平成26年度は通年で開館し、学外からの企画申請や寄贈の申し出を受け入れるなど、地域に開かれた美術館として本格的な活動が始まった年であった。以下、まず本年度の主な活動についての概略を記し、特に他の美術館では見られない特徴的な点や、本年度の新規事業を軸に自己評価を行うと同時に、今後の課題について検討したい。

なお、美術館の評価体制は、組織図にもあるとおり、美術館運営委員会のもとに設置されている「評価専門委員会」で原案を検討し、運営委員会で審議・了承されて確定するものである。

#### 1. 平成26年度の主な活動に関する自己点検・評価

「第2期中期目標」の年度計画にあるように各種の展示及びイベントを企画・実施し、広く地域に開かれた美術館として、教育研究の成果と情報を発信した。

平成26年度は29の展示等事業と、それに付随する講演会、ギャラリートーク、ワークショップ等のイベントをスケジュール通りに実行し、年間で40,780人の入館者を迎えた。美術館設置の際、近隣の美術館や大学美術館の状況及び佐賀県の人口等から年間1～2万人程度を想定していたことからすると2年目も多くの入館者に恵まれたと判断できる。前年10月の開館以来の入館者総数は67,947人となった。[※展覧会入館者一覧参照]

全29事業の内、主催事業が7本、本年度開始した申請事業が22本であった。この企画申請のシステムにより、限られた経費と人員でも通年で展示事業を開催することが可能となった。

事業内容としては、本学の美術・工芸に関しては旧教員や現任教員、学生の作品展、OBによるグループ展などが開催された。全学的な発信としては学部紹介展、複数の卒業制作展、プロジェクト研究所の成果発表など佐賀大学の現在を多彩に発信した。特記すべきは学外からの申請事業として地元テレビ局の協力を得た事業をはじめ様々な協働が実現したことで、COCを目指す大学の美術館として一定の成果をあげた。

また、大学正門と美術館一体の整備事業について第18回佐賀市景観賞を受けた。

#### (1) 美術館主催事業

- ①開館記念事業後の最初の展覧会として「石本秀雄のアトリエ」展を行った。本学を特徴づける「特美」＝特別教科（美術・工芸）教員養成課程の設立の功績者の作品の紹介により、昭和28年の開設以来、優れた人材を輩出し現在に受け継がれる美術・工芸の伝統を源流まで辿った。
- ②夏の「芸術と経済」では、50周年を迎える経済学部との共催で、学際的な性格を持つ展示を企画。お金の役割、オークションの仕組みや藩札、贋作といった芸術を巡る「価値」の問題、陶芸品の「流通」といった切り口でアートと経済を巡る諸相を示し、経済学部教員による解説ビデオを流すなど、地域館とは一味違う大学美術館の特長と存在感を展開することができた。また、本展では県など他施設の学芸員からの助力が得られ、その後の協働の端緒となった点で

意義深い。

- ③開館1年を機に、常設展に準じるものとして、大学所蔵品を紹介する小企画を2階特別展示室において開始した。初回の「海老原喜之助展」、次の「秘めたる名品展」とも、学内に保管施設がないため30年以上にわたり県立美術館に寄託されていた本学蔵品の里帰り展示であった。事前の作品調査に基づき、海老原喜之助の《衣を与う》については修復を実施し、その過程をパネルで紹介するなど、教育機関である大学の附属施設らしく、一つの展示事業を多層的・教育的に展開した。
- ④「小木曾誠・徳安和博」展では、西洋画と彫刻の現役教員の代表作・最新作を展示。わずか7日の会期だったが、一つの展示室に異なる2つの展示空間を併存させるなど展示方法に工夫をこらした。文化教育学部附属特別支援学校の生徒の作品を紹介する「がんばる私たちの木版画展」では原画・版木、本学書道科の学生とコラボしたワークショップの様子など、生き生きとした児童の取組みを紹介した。また、欧米文化講座との共催でヨーロッパの芸術文化に関する連続講座を行うなど、佐賀大学の活動を美術館から様々に発信した。

## (2) 企画申請事業

学内外からの企画申請により、年間を通じて多彩な展示事業が行われた。学内からは、昨年度より継続の美術・工芸課程「第56回総合展」、デジタルコンテンツの若き人材が集まる「第3回佐賀大学コンテンツデザインコンテスト」、各卒業制作展（美術、書道、デジタル表現、建築）に加えて、学内プロジェクト研究所による「佐賀錦・鹿島錦展」や、九州管内の大学の美術科の作品が一堂に会する「8BOXes展」など大学の教育・研究の成果発表の機会が充実した。デッサンの授業をそのまま美術館に持ち込んだ「デッサンの前と後ろ」では、作品が完成していく過程までを一般に公開するという大学ならではの事業であった。

学内と学外の連携として、医学部が中心となって開催した「医学のあけぼの」展では、地元テレビ局が運営の一翼を担うことで通常より大きな事業展開を行った。佐賀の医学史を紹介する一方、一般にはなかなか見ることのできない最先端の機器類の展示と体験が実現した。

学外からは、美術関係にとどまらず、古湯映画祭のイベントや、数学・物理の理論にも繋がる「折紙」の展示など想像以上に多様な申請があった。民間だけではなく、佐賀市主催「景観啓発展」のように自治体からの申請もあった。JA共済主催の児童の書とポスターのコンクールの入賞者展などは多くの親子連れでにぎわった。このように地域の活動と連携し、支援する活動を展開したことが、結果的に幅広い来館者を引き、新設の美術館を学外に周知する一助となった。

## (3) 実習・研修事業

前年に引き続き、文化教育学部の博物館学芸員履修課程における「学内実習」の受入れを行った。1～3年合わせて32名が参加。前年は初年度であったため全学年を対象に監視実習を行ったが、2年目となる今回は、1年目の学生は監視実習、2年目の学生に受付での窓口対応や、燻蒸を含む作品保護や展示備品の取り扱いなど実習内容を拡充した。希望する者には、海老原喜之助の作品修復の課程の見学も認めた。学生にとっては、自分の通う大学の中で、実際に運営されている美術館業務の一部に携わり、あるいは体験することができる得難い機会となっている。

## (4) 刊行物の発行

本年度は展覧会図録の作成はできなかったが、「芸術と経済展パンフレット」、「小木曾誠・徳安和博展パンフレット」、「芸術と経済展報告書」を発刊した。年間の事業活動については「平成26年度佐賀大学美術館年報/紀要」にまとめた。

#### (5) 掲載紙・テレビ取材等

通年の開館となった本年度は、新聞等 140 紙、テレビ・ラジオ 34 本で掲載・放映され、昨年を上回る数のメディアに取り上げられた。開館から継続してホームページやフェイスブックなどで各事業について逐次情報を提供し、予算のかからない広報宣伝、報告等につとめた。台風など災害時に来館者に開館情報を伝える際にもウェブを用いることで迅速に対応した。

初年度に引き続き、依頼に応じて見学・視察団体を受け入れている。一般団体や各種視察だけではなく、大学見学のための高校生や P T A の団体が多いことは大学附属施設の特徴といえる。解説・案内等の依頼に対しても、現行の職員体制で可能な限り応じている。

#### (6) 資料収集

本年度より寄贈作品の受け入れを開始した。旧佐賀商工会館からの 23 点を含む 33 点の作品の寄贈を受け入れ、将来的には所蔵品で展示を組めるようなコレクション構築の土台を作った。

大学敷地内に、彫刻の旧教員成富宏作のブロンズ像を設置した。

## 2. 今後の課題等

平成 26 年度は、開館から 2 年目であったが、運営は軌道に乗ったとは言い難い。特に予算面と人員面については開館以来の課題であり、展示公開、教育普及、調査研究等を十全に行うことは難しいが、その中で優先順位をつけつつ、順次取り組みを進めていく。

#### (1) 美術館の運営費等

現在、美術館の運営費は限られた予算となっており、半分を寄附金に依存している。寄附自体も、開館までに比べると件数・金額とも減少している。そのような状況下でも運営費を確保し、安定した美術館運営を維持していく必要がある。本年度より、施設使用団体から光熱水費の徴収を開始したが、それ以外にも自己収入策の検討、継続しての寄附獲得の努力、地域の企業等からの協力、外部資金の獲得などが必要である。現行の大学制度では速やかな実現は困難かもしれないが、将来に向けて様々な方策を検討する必要がある。

#### (2) 美術館活動

現状の限られた予算と人員の中で、いかに特色のある美術館活動を行っていくか、取り組みの内容にも鋭意工夫が必要となっている。総合大学の美術館としての特徴をさらに前面に打ち出していくことが望ましい。それらを実現するための人員については、現在学芸員は正規 1 名、非常勤 3 名が配置されているが、週 6 日の開館を遺漏なく実現しつつ求められる作業を行うための最低限の人数であり、綿密な調査研究や地域との共同研究等に基づくさらなる挑戦、さらなる飛躍をはかることが難しい状況である。(1) の運営費の課題である外部資金の獲得などを考慮すると、学芸員が学芸の仕事に専念できる環境作りは課題である。

#### (3) 施設とセキュリティの課題

開館 2 年目にして、空調等が安定せず、施設内のどこかで常に点検、補修、工事が続いている。

る。開館から1年たって見えてきた事象もあり、原因の明らかなことは施設課等に相談の上で検討、対処を行っているが、原因が特定できない不具合については今後もモニターを続け、解決法を探っていかなければならない。想定外の大がかりな施設の不調があった場合に、すぐに対処できるかは(1)の予算の問題とかわる。また、運営上の課題として、土日祝日も開館している美術館で不測の事態が起きた場合に備え、有事の際に現場がどう動くかの危機管理マニュアルの策定など、来館者や職員の安全を守る方策は早めに検討されるべきである。

#### (4) 学内の理解と関心

開館して2年たつが、美術館が全学的な施設であるという意識の醸成は十分とはいえない。文化教育学部以外にとっては自分たちとは無縁の施設という声も根強く、本庄キャンパスでも美術館に足を運び入れたことのない学生、教職員は少なくない。この状況の改善に向けて、美術館に対する学内の関心の向上を目的とする活動、工夫が必要である。



